

学力向上プラン 令和4（2022）年度

猪名川町立大島小学校

学校教育目標

自ら考え、自ら行動し、生き抜く児童の育成

研究テーマ

共に生きていく集団づくり
～自分の言葉で語り、伝え合える児童の育成～

（学力向上にかかる本校の課題）

- ・基礎学力としての漢字の読み書き、計算の力などについては、全体的には全国平均レベル近くに向上してきており、それを維持している状態が続いている。
- ・学年差はあるが、国語については、「話す」「聞く」「書く」などの領域、算数については、「空間認知能力」「思考」などに特に課題が見られる。
- ・体の使い方は徐々に向上しつつあるが、姿勢の保持、手先の巧緻性などにおいて、まだ個人差が見られる。
- ・さまざまな生活体験が少なく、既有知識や、既有経験と結びつけて考える力に弱さが見られる。

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・県 指導の重点
- ・町 猪名川の教育ナビゲーション

地域力向上

- ・地域行事への参加
- ・地域ボランティアの活用
- ・防犯パトロール
- ・PTA活動への参加

家庭力向上

- ・家庭学習の定着
- ・漢字・計算・音読・作文・その他
- ・「マイノート」による自主学習（3年生以上）
- ・基本的生活習慣の確立
- ・安心できる場づくり
- ・学級通信などを使っている、学校と家庭とのつながりづくり

児童の学力向上の手立て

- ・自尊感情の高揚
- ・規範意識の徹底
- ・全体指導 ・個別指導

「わくわくタイム」（朝学習）

- ◎基礎・基本の定着
- ・漢字の習熟
（週3を基本単位にして、学習・練習・習得を繰り返す。統一ドリル・テストの使用）
- ・言語事項の学習
- ・朝読書（週1）

「いなぼうタイム」（放課後学習）

- ・個別補充学習
- ※1・2・3年 : 月・木
- ※4・5・6年 : 月

「言語活動の充実」

- ◎授業での話す・聞く力の重点的な育成
（国語科を中心に）
- ・学級会、児童朝会、集会、行事など、学校生活における様々な場面での話す、聞く力の育成
- ・朝読書（週1）
- ・図書室 / 学級図書の積極的活用（各教科の学習で図書の有効利用 ↔ 学校図書館司書との連携）
- ・イナくるっと号（移動図書館）の活用（月1）
- ・学校生活の中での、正しい言葉遣いへの意識、温かいコミュニケーション力の育成
- ・きくきくドリル、コグトレなどの活用

「思考力・判断力・活用する力の育成」

- ・生活科や総合的な学習などの時間を通して体験的な活動を積極的に行い、学んだことをもとに、思考力・判断力・活用する力を養う。
- ・学習に必要な認知能力を高めるトレーニングを行う。（コグトレなど）

教師力（授業力）の向上

- ・ユニバーサルデザイン化された授業（全体指導の中での わかる・できるための工夫、支援）
- ・合理的配慮を基盤とした授業（個に応じた わかる・できるための工夫、支援）
- ・めあて～自力・集団解決（主体的、対話的な学び）～まとめ・振り返りのある授業
- ・一人一実践授業公開、教師力アップ研修（時節に合った課題への授業力・教師力アップの研修）
- ・講師招へい研修

児童が安心して教室にいられる場づくり（子ども同士の共感的な呼応関係、前向きな雰囲気づくり）、支援の必要な子への対応、学級経営のあり方の検討

「指導体制の工夫」

- ◎きめ細やかな指導・支援
- ・児童支援 / 新学習システム（複式・外国語）スクールアシスタントの活用
- ・ユニバーサルデザイン化・合理的配慮のある授業
（一斉指導 / 取り出し指導）

「学習に向かう体づくり」

- ・児童の実態に合わせた体育カリキュラム編成
- ・どの子もがわかる、できる楽しい体育授業
- ・日常の生活の中での、体づくりにつながる動きの意識化
- ・休み時間の体づくりにつながる遊びの奨励
…児童会とのタイアップ
- ・いなぼうアタック

「集中力向上の工夫」

- ・学校生活、授業のユニバーサルデザイン化

幼・小・中連携

- ・授業交流
- ・指導・支援交流
- ・キャリア教育

専門機関との連携 （SC・SSW・川養・町教育支援センター等）

- ・保護者相談
- ・児童支援・対応相談

学力調査

- ・全国学力・学習状況調査（6年）
- ・町学力調査（5年）
- ・統一単元テスト
- ・標準学力調査（4・5・6年）

体力調査

- ・スポーツテスト

安定・安心した学校生活・家庭生活をベースに学力向上が成り立つ